

# 会 報

## 公認会計士三田会

### 目 次

1. 公認会計士三田会への期待……………塾長 石 川 忠 雄…………… 1
2. 薬師寺伽藍木組み, 心組み……………内 川 清一郎…………… 2
3. 慶應義塾創立 125 年記念式典……………中 村 忠…………… 4
4. <社中交歓>
  - ① 福澤諭吉先生の先祖……………遠 藤 七 三…………… 6
  - ② ある会計士補における実践的, 教訓的  
部分的失敗事例集……………中 村 浩 之…………… 6
  - ③ 僕だって士補です……………小 室 雅 美…………… 7
5. 今ならば, 何を言ってもいいとも!!先輩たちよ, この声を聞け!!  
'83年新人たちの脳裏をよぎるもの — 新入社員意識調査…………… 9
6. 塾の近況報告……………塾長室室長代理 金 田 進……………11
7. 公認会計士三田会の有資格者の現況 (昭和58年10月末) ……西 野 清……………15

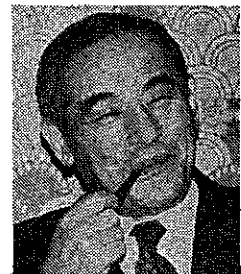
### 公認会計士三田会への期待

塾 長 石 川 忠 雄

「私学の時代」といわれ始めてから既に4, 5年にもなろうか。この言葉は, 大学入試の難易度からみて, かつては国立のスペリ止めの役割を果たしていた私学の入試が, 早慶に落ちて国立の, それも東大を頂点とする旧帝国大学に合格する現実の事態を目のあたりにして, 受験産業のマスコミが名づけたものといってよい。「私高国低」とか「国易私難」とかいった言葉も, そうした経緯から生まれた用語である。

けれどもこのことは; 何も今に始まったもので

はなく, 例えば公認会計士の試験に関する限り, ここ十年近くも合格者数の首位の座を独占してきたのは, ほかならぬわが慶應義塾であった。ともあれ, 司法試験も公認会計士試験も, その難しさにおいては



甲乙をつけにくい難関だが, そのいずれもの合格者の首位を, 早慶でわかち合ったのは, 官学偏重

の日本の社会のなかで、注目すべきニュースである。

実はこのたび新しく刊行された昭和58年度版『会社別塾員名簿』を手にして驚いたのは、その巻末に添えられた各界塾員の項のなかで、法曹界に活躍する人々とならんで、公認会計士の資格をもつ塾員数の圧倒的な増大であった。少なくとも創立百年を迎えた昭和33年当時と較べて、この25年の歳月の流れのなかで、最も大きく変貌した社会の各層における塾員分布の一つではなからうか。

私はこの変貌を、慶應義塾のためにもきわめて喜ばしい現象として受けとめている。しかも今後の経済の動きは、国際的にも国内的にも、激しい変化を伴うものであることを考えるとき、公認会計士三田会の存在が相互の親睦もさることながら、社会の流動化に対応し得る研鑽を重ねる上にも役立つことを期待したいし、また後に続く塾生たちにも、大きい励ましと助言を与える存在となっていたきたいものと願っている。

## 薬師寺伽藍木組み、心組み

内 川 清 一 郎

私は、今、奈良薬師寺の信徒総代として特に白鳳時代の伽藍復興に及ばず乍ら力を尽しております。

薬師寺創建当時の建物、あの凍れる音楽と云われた国宝の東塔が現在も残っており、之を生きた手本として、法隆寺、唐招提寺等修理の経験豊かな宮大工、西岡常一棟梁を薬師寺に招き千二百年以上も昔の伽藍のただずまいを再建、それも昭和51年には念願の金堂、56年には西塔を完全復興し、只今は中門、続いて玄奘三蔵院（之は復興でなく上代建築を模した昭和の新築）を建て、後世に残したいと一山を挙げて取組む薬師寺です。

建築と申しましても例えば最近、ブームを呼ぶ所謂各種のプレハブ建築といったものは、耐用命数30年そこそこのものであり、あの強靱そのもののように見える鉄筋コンクリート建築にしてもせいぜい70年位しかもたない。鉄筋とコンクリートの接合部が6、70年もすると腐蝕してガタガタになる。それに較べて千五百年の樹齢を持つ桧材で組み上げる伽藍は千五百年の寿命があると云われており、その実証が法隆寺伽藍というわけです。

宮大工の西岡棟梁が、西塔を作る時『塔を組むのは木を組むこと。木組みは寸法で組まず木のくせ組み、木のくせ組みには人の心組み』と西岡家に伝わる家訓口伝を話してくれました。



さて、大寺院の用材、巨木というものは、昔は木曾や吉野にもありましたが、今では殆んど伐り尽され、時たま山奥にポツリポツリ現存してはいるものの、之を伐り出して運ぶ林道が必要で、その道路作りに数億円もかけねばならぬこともある。だから今迄そんな巨木が残っていたのだとも云える。それに日本国内の巨木はその気候風土の関係で肝腎の芯の部分が大きくうづろになっているものが多い。そこで台湾の桧を戴いてくるわけです。薬師寺では主にこの台桧を使っております。台湾の羅東、太平山中腹の材——寺のスタッフがその都度、現地に趣き巨木の選択、そしてその成育の状況を棟梁がつぶさに調査します。棟梁はその用

材が山にどういふ風に生えていたかを調べ、他日製材して寺で之を使う時、生育の状態と同じように組んでいく。つまり山の南斜面にあった巨木は建物の南の丸柱に、北の日当りの悪いところに生長した木は、北面の同条件のところに構築すると云った木組み、くせ組みが伽藍の耐用寿命を決するという事なのです。伽藍作りの木組み、そして特に心組みは唯、宮大工たちだけのものではなく寺や私たちも心を尽し、伐採した巨木に対する現地での法要、之を補う苗木の多量の植樹と、その心組みを大切にしております。

ここで現在話題になっております62年落慶予定の玄奘三蔵院に就いてお話致します。薬師寺に唐の玄奘三蔵の御頂骨を奉じた三蔵院が建築されるのです。この玄奘三蔵は孫悟空の活躍する『西遊記』の中に出てくる三蔵法師さまで、先年テレビでも上映され、猿の孫悟空、豚の猪八戒、河童の沙悟浄が法師の従者として印度にお経をとりにいく話、架空人物のように思われ勝ちですが実際に中国のお釈迦様と云われた実在のお方で、中国長安から印度への苦難の大旅行、18年がかりで仏教の原典である色々のお経を唐に持帰り、その後一人で実に1335巻の翻経をされました。19年間に75部、1335巻ですから5日に1巻の割りでの翻経でした。

因みに、印度の經典を漢文に訳された代表的な6人の翻訳家即ち、鳩摩羅什三蔵（384巻）<sup>クマラジツ</sup>真諦三蔵（142巻）<sup>シンタイ</sup>不空三蔵（143巻）<sup>フクウ</sup>法護三蔵（354巻）<sup>ホウゴ</sup>義浄三蔵（239巻）<sup>ギジヨウ</sup>に較べて玄奘三蔵は1人で1335巻、誠に前人未踏のものと云わざるを得ません。それが後に日本の仏經に及ぼした影響ははかり知れないものがあるのです。この千三百年前の大偏覺の御頂骨が誠に不思議な御縁で薬師寺に参りました。その経緯を書きますのも御縁でございます。

玄奘三蔵は中国唐時代、麟徳元年2月5日長安（今の西安）の玉華宮内でお亡くなりになって、1278年後の中華民国31年（昭和17年）12月23日のこと、南京中華門外の金陵兵器廠において、その靈骨が日本軍、高森部隊により偶然の機会から発掘されました。この高森部隊・高森隆介氏の御子息と私は当時、学徒應召で伊勢の部隊へ入隊。そんな御縁もあり、玄奘法師の御頂骨の一部が後に南京政府から日本仏教連合会に分贈され、転々として南埼玉、岩槻の由緒深い慈恩寺の靈骨塔に納められている事を知りました。そして慈恩寺の大鳥見道猥下の御好意により昭和56年4月5日、薬師寺西塔落慶法要の日に御頂骨分骨を薬師寺にお納め願いました。ここに寺の鼻祖としての玄奘様の奥津城玄奘三蔵院建立の計画は練られ、特に絵殿を設け、院展の平山邦夫画伯によって20年がかりの大壁画（玄奘法師の18年に亘る長安—印度行の往還を壁画化）が、着々執筆されているわけです。その信者側担当として奉仕出来ますことは私にとって幸せの上もない事です。

信徒われ 生けるしるしあり

大寺の栄ゆる時に あえらく思えば

物で榮えて、心で減ぶ現代において伽藍の木組みそれが吾人の心組みとなり、未来千年に残す事業を今、疑視しております。

筆者 — 演出家、劇作家、奈良薬師寺信徒総代  
（金堂・西塔・玄奘三蔵院建築美術担当）

去る4月6日、当三田会では筆者内川氏をお招きして、一夕講演を伺った。その時のお話の内容を概略纏めたのが本稿で、今回、会報掲載のため特に書下していただいたものである。

— 編集部

## 「慶應義塾創立 125 年記念式典に参列して」

昭18経済卒 中 村 忠

日時 昭和58年 5月15日(日) 午後1時

場所 慶應義塾 日吉記念館

40年振りで、日吉を訪れた。。私の記憶に残っていた日吉とは、広い畑の中に点存する校舎と、小さな灌木の植込のある貧相な校内の思い出だけであった。日吉の駅を降りて、吃驚した。並木道の木々の深さ、緑の濃さ、あの灌木が40年経って森林に成長したため、記憶の中の風景と一変してしまったことである。そこには立派なキャンパスがあった。

式典が始まった。序幕には、コントラバス7本、ハープ1本を含むオーケストラ、「慶應義塾ワグネル・ソサイエティー」が、芥川也寸志氏の指揮によってワグナーの“マイスター、ジンガー序曲”を荘重に演奏し始めた。続いて塾歌斉唱。式場を埋めつくした5,000人の大合唱は想像を絶する程の力強さである。慶應義塾が安政5年以来125年の間、吾国の文明に貢献したという自負心が、その合唱のバックボーンにあるとも思えた。

“見よ” 風に鳴る わが旗を  
新潮寄する あかつきの  
嵐の中に はためきて  
文化の護り たからかに  
貫き樹てし 誇りあり  
樹てんかな この旗を  
強く雄々しく 樹てんかな  
あゝ わが義塾  
慶應 慶應 慶應

石川忠雄塾長による式辞。以下要旨を述べる。

「慶應義塾は安政5年(1858年) 福沢諭吉先生

が築地鉄砲洲の奥平家中屋敷内に蘭学塾を開設、その後、文久3年(1863年)に英学への転向を志し、更に慶應4年、芝新銭座に塾を移し、塾名をその年の年号に因んで、「慶應義塾」とした。その後明治23年大学部発足。大正9年(1920年)大学令施行により、文・経・法・医の4学部発足。昭和14年には、それから5年ののちに工学部となった藤原工大が設立された。

幕末、上野の戦争のときに、芝新銭座の家塾において、ウーランドの経済学を講じながら、“慶應義塾が存在する限り、吾が国に学問の灯は消えることはない”この有名な故事は、歴史の流れと共に今日の慶應義塾にそのまま伝えられて来たが、慶應義塾は125年の間平坦な道を歩いて来たということの意味するものではない。大平洋戦争は、慶應義塾の卒業生、在校生の貴重な生命を奪い取り、かつ学園の施設を破壊するなど、再起が危ぶまれるほどの大きな災害を慶應義塾にもたらしたのである。塾内外の関係者の営々たる努力は、戦後38年を経て、17万人の卒業生をバックボーンに、在校生3万人、教職員4千人の一大学園に甦えたのである。

私たちは今日のこの現況を誇り、125年の過去の栄光を、徒らに追うものではない。時代は変化し、世界は変化し、人間の智慧も発展し、学問の在り方も絶えず変化している。これらの変化にどう対処して行くか、そして最も適確にその変化を捉え、最も有能なる学問の府となることが、福沢先生以来の慶應義塾の私学としての使命でもあり特色でもある。その特色を彩どるものは次の三つである。

① 独立自主の精神をもって、自からの人格を形成し

② 新しいものへ挑戦し

③ 人間としての素直さを備えることである。

これらの特色に培われた慶應義塾の学問は、国際交流の場の中においても、十分に堪え得るだけの評価を受けるに違いない。

私は、卒業生、塾員がその生涯を通じて、よくぞ慶應義塾に学んだという矜持を持ち続けていただけるべく、本塾の一層の発展に努力する事を誓う。」

ジョン・バターフィールド氏。塾員代表・横田郁氏。

塾生代表・小林将浩君の祝辞があり、慶應義塾祝典曲（堀口大学作詞、団伊久磨作曲）の演奏を終幕に、午後2時すぎに式が終了した。

祝賀の宴は陸上競技場に設けられた野外パーティーに移った。曇天がいつしか小雨模様になった。大天幕は用意されていたが、雨模様が夕暮れを早め、参加者も早めに散り始めた。

塾長の式辞に続いて、早稲田大学総長・西原春夫氏。ケンブリッジ大学・ダウニング校々長・ジ

祝典に参列する機会を得ましたので、当日の様をお知らせ致します。

## 総会及び新年宴会のお知らせ

第7回定時総会と新年宴会の開催予定が、次のとおりになりましたので、お知らせいたします。

### ◆第7回定時総会

日 時：昭和59年1月18日（水）午後5時30分～6時

場 所：「大隈会館」3階3号室（3階の一番奥）

（早稲田大学構内。電話203-4361 会場が珍しいところになりましたが、これは、新年宴会との関連によるものです。）

議 題：議案・第7年度決算案承認の件、 報告事項・会務報告等

### ◆新年宴会（第2回早慶合同）

公認会計士稲門会と合同の新年宴会になりました。56年1月に開かれたのが第1回で、この時は当三田会が幹事となり、銀座交詢社において、両校から石川塾長、清水総長他諸教授の臨席を得て、100名を超える両会々員が集り、誠に盛会でありました。

今回は稲門会が幹事となり、次の要領で開かれます。（このため、当三田会の総会も、新年宴会々場の隣室——大隈会館2階となった次第であります。ご諒承下さい。）

日 時：昭和59年1月18日（水）午後6時～8時

場 所：「大隈会館」3階（早稲田大学構内 電話203-4361）

会 費：CPA 3,000円

JA 1,000円

来賓（予定）：塾関係 石川忠雄塾長、 小島三郎商学部長、 会田義雄教授、  
高鳥正夫教授他

## 福沢諭吉先生の先祖

遠藤 七三

およそ先祖のない人なんていないわけであるが、福沢先生の先祖がその出身地豊前中津藩（大分県）でなく、全く離れたところであるので、ここに御紹介するわけである。御承知のように福沢先生は、幕末に緒方洪庵塾で蘭学を学び、1858年藩の招きで出府し、鉄砲州に蘭学塾を開き6年新銭座へ移した。これが福沢先生が創立した慶應義塾のはじめである。

大正10年慶應義塾大学で「福沢諭吉伝」を編集する際先生の系図を調べたところ、その先祖は信州福沢村より出ず」とあったので、この福沢村の名主善徳を諭吉の先祖と定めている。この善徳屋敷は長野県茅野市豊平、大塩団地近くの台地であり、ここにこの地の篤志家が近年そのゆかりの碑を建てた。蓼科山の麓、まことに眺望の良いところである。

私は時々立寄って見ているが、余り訪れる人もないのは残念なことである。

ところで、福沢先生の先祖がこの地を出ることとなった契機は、武田勝頼による木曾義昌攻めであった。時は天正10年2月、武田信玄の死亡、上杉家内紛、徳川氏の攻勢による遠州高天神城陥落に引き続く出来ごとであった。木曾氏は鎌倉以来の信濃源氏の名門であり、信濃国（現長野県）木曾郡の領主として、信玄以来、武田氏に従属していた。当主の義昌は勝頼の妹婿であったが中仙道の要衝である木曾谷を支配する木曾氏に対しては、長篠の戦以降再三織田氏よりの勧誘があった。加えて勝頼による葦崎新府城の建設にあたっての苛酷な木曾検材の供出命令があり、これを直接の契

機として武田氏に反旗を翻すこととし、勝頼よりの詰問の使者を殺した。

義昌の叛逆が明瞭であるを知った勝頼は、義昌討伐に着手した。即ち、新府城を出発した一万五千の兵は、天正10年2月2日、諏訪の上原城に陣した。部将の今福筑前守と諏訪栗沢（現在の茅野市観音平）城主諏訪越中守頼豊は鳥居峠まで兵を進めたが、積雪3尺余、腰を没し、動きがとれず2月16日の戦には甲州の暖かい地の出身の部将今福の軍は全く役に立たず、頼豊の軍が中心で奮戦した。しかし、頼豊は長男采女正頼之、二男源三郎頼享を失い、武田方は敗北した。この時福沢村の名主善徳は、領主頼豊の軍に従軍したが、鳥居峠より帰らず、また戦死の報もないまま行方不明となった。今日でも「善徳屋敷」跡が残っている。これが福沢先生の先祖のゆかりの地である。

これからは冬期で寒さが酷い所であるが、夏ともなれば涼しい台地の背後に、蓼科山が眺めわたせる景勝の地である。公認会計士三田会の諸兄には、近くに寄られる機会には足をのびして、福沢先生の先祖の地を訪ねることを御すすめる。

参考文献「武田信玄と諏訪」細川隼人著

## ある会計士補に於ける実践的 サンプリング 教訓的、部分的失敗事例集

昭54商卒

中村 浩之

其ノ一

ある会社へ初めておじゃました時のことである。初めてという事で会社の中を案内され、いろいろな方と御挨拶をした。

新人歌手よろしく、「中村でございます。どう

ぞ宜しく御願います。」を連発し、手には頂いた名刺が山となった。昼休み、それらに日付を書き込んでゆく。ここまではセオリー通り。午後になって社長がいらっしゃり、再び新人歌手。ところが、小生の名刺を手にした社長が怪訝そうな顔をしている。

そのうちに「何ですか、これ?」「ハァ?」と覗き込んで驚いた。手にしているのは何と、全く違う人の名刺。同僚の笑いの中でその原因が頭をよぎった。「……そうだ、……もらった名刺が多くなったんで昼休みに名刺入の場所を変えたんだ……。」そこで教訓その一『確かめよう、差し出す前に我が名刺。』

### 其ノ二

出張で札幌に行った時の事である。その日は丁度、監査の最終日であり社長がススキノへ飲みに来て行ってくれた。飲む程に酔う程に札幌の夜はふけてゆく。しこたま御神酒も入りホテルへの帰り道、社長が、「滑りますから気をつけて下さいよ。」と声をかける。メートルの上った小生は「いや、自分は山をやったので大丈夫です」その言葉が終るか終らないかのうちに、ステーン。起き上ろうとして又、ドスン。この時は心身共に痛かった。後で聞けば、地元の人には雪靴と称して夏に履く靴とは底の違うものを履いているとか。江戸ッ子を自負する小生は底んとは露しらず、こんな事ならアイゼンを持ってくるんだったァー。

そこで教訓その二、『気をつけよう、冬の札幌夜の道、原地人には従がうべし。』

### 其ノ三

小生はMSという仕事柄、会社の人とはよく飲みに行く。フォーマルな組織を離れたところの人間のコミュニケーションが……などとは建前で、要はのんべなのである。

ある会社で、仕事と酒を通じて知り合った仲の良い友人がいる。その人と出合った頃の話。一軒目、二軒目とすっかり意気投合した二人は三

軒目でスタンド・バーへ。そこでも話は増々盛り上り、趣味の話、女房にいじめられる話…etcなどが飛び交った。そのうち何故か、彼が会社で気に入らない奴の話となった。小生も調子良く、「うんうん、そうかも知れない。大体ああゆうのに限って、大学時代はネチネチとダンゴ虫なんか飼いやがって、朝な夕なに覗いてやがるんだ。」などとのたまう。すると彼が下を向いて腹をかかえて笑い出した。「中村さん、そりゃまずいよ」「?」「僕は4年間、ゾウリムシの研究をしたんだよ。」「……………」

小生は一挙に酔いが醒めていくのを感じるのであった。

そこで教訓その三、『会社には、誰が居るやら判らない。飲んだら(話に)乗るな、乗るなら飲むな。』

他にも枚挙にいとまがないが、恥かき人生を紹介するには、試査範囲として十分であろう。

追伸 一応本人にも名誉のかけらはアルノデス。

## 僕だって士補です。

昭57経済卒

小室 雅美

入社後一ヶ月 — 旧友交歓会より —

「よう、久しぶり。まっ一杯あけるよ。」高校時代の仲間に久々に会うのはいいものです。1日中椅子にすわって電卓をたたく仕事もはや1ヶ月が過ぎ、今日は自分の就職祝いを兼ねて悪友5人が集まりました。彼らとは半ズボンをはいていた時以来の付き合いで互いに気心の知れた仲間です。

T君「お前、会計士になったんだって。へえ出世したな。そのカバンの中は何んだよ……。」

嬉しい気持。つい酒のペースがあがります。しかし待てよ。タイム誌とは云わずとも、せめてフ

フォーカスがいってればよかったんだけど、週刊宝石じゃ。それにハサミ、のり、ホッチキス等の士補七道具。小学校の図工の時間じゃあるまいし。以前なら笑って見せたけれど、「職業上の秘密」と一言。変ったな俺って。

K君「俺、来年結婚するんだ。是非結婚式に出てくれよ。楽しみにしているから。」

突然の発言に一同哑然。しかも相手は隣にいるSさん。今日を楽しみにしていたのはSさんが来ると聞いたからで、実は以前彼女と付合っていたことがあったんです。それが大学が別になり、この試験にかまけて疎遠になっていたのがこんな結果になるとは。

Sさん「小室君にはスピーチお願いね。」

T君の時には二次会だけだったけれど今度は結婚式、しかもスピーチ付で。これも会計士になったためか。いずれにしても複雑な気持。一瞬沈黙。そしてごまかし笑い。

Nさん「会計士の試験って難しいんでしょう。何科目ずつ取っていったの。」

彼女の言葉を一番恐れていました。そこにK君が助船。しかし彼でさえ税理士との違いをうまく説明してくれません。所詮世間でこんなものかと思いつつ「税理士は町の自営業を、会計士は会

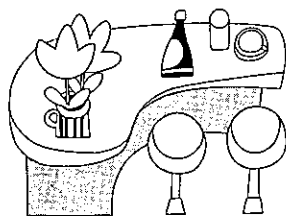
社を担当する。」とお茶を濁して一件落着。酒もはいる学生時代の思い出に花を咲かせてなつかしがつていると、

T君「この中で独身はN子と小室だけだぞ。どうせなら……………」

人の気も知らずにK君・Sさん「そうだ、そうだ。」の連発。Nさん含笑い。一瞬あの含笑いが気になりました。クライアント先で先輩が担当者に詰問した時の担当者の笑い方によく似ています。「何かある、あるに違いない。」入社後1カ月して、何んとなく身につけた直感です。

旧友に久々に会うのは楽しいものです。時間を気にせず明け方まで酒を交わし1年後の再会を約束しました。今度会う時は入社後1年目。彼らの人生も、そして自分の人生も多分大きく変わっていると思います。

僕だって士補です。受験時代をやっと通り抜けこれから社会に、仕事に？遊びに羽ばたこうと一生懸命にやっています。慶應の先輩であられる諸先生・諸兄姉の皆様、どうぞ暖い目でこんな自分を御指導されることを心から切に希望して、筆をおくことにします。





# 今なら何でも言ってもいいよ!! 先輩たちの声を聞け!!

## '83年新人たちの脳裏をよぎるもの

新入社員意識調査

大学出身の新人達の新鮮な目で見ると公認会計士業界はいったいどうなのか？ 何を考え、何を求めているのか？ 暗中模索で入社した新人も、2ヶ月たてばいろいろ感じます。その感性豊かな胸のうちの、アンケートにより調査しました。

(発送 44名 解答 24名)

### 1 なぜ、会計士になったのですか？

- ① 他に就職先がなかったから。 0人
- ② 人から批判されるのはキライだが、ずるの好きだから。 4人
- ③ 社会的な肩書が欲しかったから。 6人
- ④ 自由業で、将来独立のチャンスがあるから。 8人
- ⑤ 親の後を継いだだけ。 3人
- ⑥ その他 3人

自由業で、将来独立のチャンスがあり、社会的肩書として適当であるというのが、平均的動機ということですが、その他の解答として(原文のまま)

- なんとなく
- 医者・弁護士・サラリーマンになりたくなかった。
- 気がついたらなっていた。がありました。

### 2 仕事を始めて一番うれしかったことは何ですか？

- ① 初月給をもらったこと。 0人
- ② 昼食においしいものが、タダで食べられる。 8人

- ③ クライアントに美人がいて、仲良くでき人生が明るくなった。 1人
- ④ 一番うれしかったこと、それは仕事ができることです。 11人
- ⑤ その他 4人

予想外に④が多かったことは、この感激がいつまで続くかは別として、よろこばしいことです。③が少ないのは、いまだ時間的余裕がないため、美しい女性に対する関心が低いわけではないのは、後の③で明らかです。その他としては、

- 友達がふえたこと(2名)
- 残業がないので、自分の時間を確保できました。

### 3 仕事を始めて一番つらかったことは何ですか？

- ① 給料が思ったほど高くなかった。 2人
- ② 給料が思った通り安かった。 8人
- ③ 上司にいじめられた。 1人
- ④ クライアントに美人がいなかった。 6人
- ⑤ クライアントの社員にバカにされた。 2人
- ⑥ その他 5人

会計士業界の給与水準が低いという事実は知っていても、現実の問題となるとあらためてガッカリする傾向があるようです。

その他としては、

- 早起きとラッシュ
- 飲み代が新人でも割勘なこと。
- 会計士業務につらさは感じません。等がありました。

4 先輩会計士をみて、どのように感じましたか？

- ① みんなアホばかり。会計士になったことを後悔している。 2人
- ② 自分と同じレベルだ。すぐ仲間になれそう。 3人
- ③ 簡単に追い抜けそうだけど、しばらくは地味にいい。 5人
- ④ 可もあり不可もあり、人によります。 10人
- ⑤ やはり先輩はスゴイと思った。優れた先輩の指導に従ってガンバろう。 1人
- ⑥ 回答なし 3人

以上のような結果でした。

5 立派な会計士になるための条件はなんですか？

- ① 酒とカラオケと麻雀とゴルフに強くなる。 3人
- ② 社員にゴマをすり、仕事をしているふりをする。 0人
- ③ とりあえず、一生懸命勉強をする。 3人
- ④ その時その時与えられた仕事に打ち込む。 7人
- ⑤ 勉強になるような仕事に回せと要求し、早く経験を積む。 6人
- ⑥ その他 5人

①～⑥迄のすべてを備えれば鬼に金棒ですが一つとなると、勉強になるような仕事に打ち込むのが良いようです。その他としては、

- クライアントへの説得力、クライアントからの信頼を備える。
- 数少ない立派な先輩と仲よくする。
- 立派な会計士になろうとは思っていません。等がありました。

6 会計士業界で自分は出世できると思いますか？ 思うならどのポストをめざしますか？

- ① 協会会長 4人
- ② 所属事務所の理事社員 2人
- ③ 所属事務所の代表社員 9人
- ④ 所属事務所の社員 2人
- ⑤ 個人事務所のオーナー 3人
- ⑥ その他 0人
- ⑦ 回答なし 4人

所属事務所の代表社員位はなれると思いきや平均像となりました。回答のなかった4人は出世できないか、しようと思わないものと思われます。

7 会計士になっても不自由しているものはなんですか？

- ① 女 6人
- ② お金 11人
- ③ その日その日の飯 0人
- ④ 知識と教養 7人
- ⑤ その他 0人

極端な回答結果となりましたが、原因はアンケート用紙に「本音で回答してください」と書いたためと思われます。またお金には不自由しているが、その日その日の飯までは事欠かなくなったのは、近年の初任給アップの効果と思われる、この傾向が今後とも続くことが望まれます。

8 将来、どのような分野に進みたいと思いますか？

- ① 三次試験に合格するまで我慢する。 4人
- ② 監査を中心にやってゆく 3人
- ③ MS業務をやりたい 2人
- ④ 国際業務をやりたい 8人
- ⑤ 税務をやりたい 3人
- ⑥ 全部やりたい 3人
- ⑦ その他 1人

国際業務の人气がダントツでした。

9 今の会計士業界で一番欠けているものはなんですか？ 給料以外で一つあげてください。（多かった順に挙げれば以下の通りです。）

- 社会的地位（知名度） 4人
- 政治力 3人
- 思いやり（人間性） 3人
- 権威 2人
- 若さ 2人
- 会館建設臨時会費への応募 以下1人
- 誇り
- ポストの硬直化による活性化

- 定年退職制度
- こんな不真面目なアンケートを会報にのせるような厳しさの欠除（スママセン、編集局）
- Now さ
- 業界全体の連帯と情熱
- 革新に対する意欲
- Nothing
- 福利厚生

以上

## 塾の近況報告

塾長室室長代理 金 田 進

昭和58年に、慶應義塾は創立125年を迎え、その意義をより一層高めることを希って幾つかの記念行事が盛大に挙行された。またこれを機として、研究・教育体制の整備・充実を図るための記念事業も一斉に着手され、その一部は既に完成を見ている。

それ等記念行事・事業を推進するために必要な資金総額は180億円に及び、そのうち150億円は募金にて、広く社会に理解と協力を呼びかけることとし、昭和57年7月から募金活動を開始した。幸い義塾の研究・教育活動が社会に評価され、順調なお申し込みが続き、開始後1年目の昭和58年7月には既に当初の目標額に達するところとなった。その後も目標額を建設事業所要資金の175億円として募金活動を継続しており、昭和58年11月15日現在168億円余のお申し込みを頂いている。塾員各位を始めとする社会全体の義塾に寄せる好意と期待の大きさに対し、深い感動を覚えると共に、より優れた学塾として社会に貢献して行くことを新たに誓うものである。

そこで今回の塾の近況報告は、これ迄に実施されてきた記念行事並びに記念事業を主として行うことに致したい。

### （記念行事）

#### • 創立125年記念式典

昭和58年5月15日（福澤先生ウェーランド経済書講述記念日という義塾所縁の日）午後1時から日吉記念会館で盛大に挙行された。会場には来賓、義塾役員、教職員、記念事業各委員、三田会・塾員代表、賛同法人・塾生代表等約5,300名が参列した。

式典は松本常任理事の司会で塾歌斉唱に始まり、石川塾長から「将来に向けて社会の期待に応え、学問を通じてわが国の発展に貢献しうる義塾でありつづけるための一層の努力を誓う」旨の式辞が述べられ、次いで祝辞に立った西原春夫早稲田大学総長からは「永遠のライバルとして早慶両校はお互いに切磋琢磨しながら日本の学術文化の向上に貢献していこう」との挨拶を頂いた。また、は

るばる英国から出席されたケンブリッジ大学ダウニング校学長（当時、現在はケンブリッジ大学総長）ジョン・バターフィールド卿から、イギリス連邦大学協会を代表しての祝辞と共に、ケンブリッジ大学代表として「両校の結びつきを今後一層押し広げ、強固なものとするべく万全の努力をつくす」と挨拶があり、壇上で義塾へ贈られるギリン様式の壺が塾長に手渡され、両校の絆をより深めるかのように固く握手が交わされた。さらに全国17万の塾員を代表して横田郁評議員会議長から、塾生を代表して小林将浩全塾ゼミナール委員長からそれぞれ祝辞があり、最後に、慶應義塾祝典曲が芥川也寸志氏の指揮で厳かに演奏されて、参列者に深い感銘を与えた。

式典終了後、陸上競技場に会場を移して祝賀パーティが行われた。

●福澤先生墓前祭及び役員・教職員物故者慰霊祭  
昭和58年4月23日（開校記念日）午前10時から福澤先生墓前祭が麻布山善福寺で行われた。義塾が創立125年を迎えたことを福澤先生に報告するため、義塾創立100年・命名100年の先例に倣って行われたもので、石川塾長、福澤家代表のほか義塾関係者約130名が参列した。

引き続き同日午前11時30分から義塾役員・教職員物故者慰霊祭が三田第1校舎123番教室で行われた。義塾創立100年記念式典以後この四半世紀間に逝去された役員・教職員538名の霊に対して義塾創立125年を迎えたことを報告し、その在職中の尽力を感謝するために行われたもので、石川塾長、遺族のほか義塾関係者約350名が参列した。

#### ●記念講演会

昭和58年4月23日（開校記念日）午後2時から東京経団連ホールで第1回記念講演会が開催された。塾長の挨拶に続き、遠藤周作、加藤寛、武見太郎の三氏がそれぞれ「私の文学と私の宗教」、「レント・シーキング・ソサエティー（行政改革と福澤先生）」、「現代医学は何処へ行く」とい

う演題で講演を行い、満員の聴衆を魅了した。この後、当記念講演会は広島、大阪、仙台、高松、札幌、福岡、名古屋、金沢の各市で開催し、好評を博した。

#### ●高橋誠一郎コレクション

##### 浮世絵名作展

昭和58年9月23日から同30日まで、銀座和光6階和光ホールで、創立125年を記念して義塾が所蔵することになった高橋誠一郎さんの浮世絵コレクションの一部が公開展示された。このコレクションは、経済学前史殊に重商主義経済学説の研究にかけては世界的権威として知られ、戦後は文部大臣あるいは日本芸術院長などの要職を歴任してわが国文化の向上に寄与された高橋さんが、そうした活動の傍らとはいえ、浮世絵を心から慈しみ、その生涯を捧げて研究・蒐集を続けて創り上げたもので、そこに収められた系統立った作品は、質・量ともに世界有数のものとして高い評価を受けている。今回の展示では、そのうち浮世絵を創始した元禄の師宣を始めとし、明和の春信、天明の清長、寛政の歌麿、栄え、写楽など浮世絵黄金時代といわれている頃の名品を中心に選りすぐったものが出品され、会期中の入場者は約1万名に及び、好評裡に終了した。

#### ●歌舞伎「福澤諭吉」上演

昭和58年11月に歌舞伎座の吉例顔見世大歌舞伎で、義塾創立125年を記念して真山青果作「福澤諭吉」が上演され、塾員市川猿之助君が若き日の諭吉を演じ、その名舞台は義塾関係者を深く感動させた。

#### ●慶應国際シンポジウム「アジアと日本」

昭和58年11月7日から11日にかけて三田山上で、慶應国際シンポジウム'83「アジアと日本」が開催された。

アジア諸国から政治、経済、文化、教育等の分野で現在活躍されている代表的な指導者—

(パク・チュン・フン)

朴 忠 勲

韓国産業開発研究院会長  
元大韓民国大統領代理

モフタル・ルビス

アジア新聞財団事務総長

ソンマイ・フントラクーン

タイ王国大蔵大臣

タイ日本協会会長

エスコラスティカ・ピンセ

フィリピン中央銀行顧問

前同銀行副総裁

(スン・ジャン・テン)

孫 尚 清

中国社会科学院副秘書長

北京大学教授

アルバート・ウエント

南太平洋大学教授

前サモアカレッジ学長

(R・L・ホアン)

黄 麗 松

香港大学学長

マハティア・ビン・モハマド

マレーシア首相

の各氏を招き、明治初年福澤先生が日本人の啓蒙と知的論争の場として設立した「演説館」を持つ三田山上で、専門家による討論は言うまでもなく、次代を担う日本の若人・塾生に直接語りかけてもらい、質疑応答がなされ、日本とアジア諸国が真の相互理解に達するために意義深い催しとなった。

・その他

塾生行事としてシンポジウム（5月に「国際人の条件」、10月に「女性と社会」）、ラリー、スポーツ大会、音楽祭、懸賞論文・創作募集等多くの有意義な催しが行われた。

## (記念事業)

・福澤研究センターの発足

福澤先生に関する資料・文献等を蒐集し、総合的福澤研究の充実を図るため、昭和58年4月1日に開設され、7月14日塾内外の関係者の列席を得て開所記念パーティーが催された。初代所長には石坂巖商学部教授が就任した。

・高等学校新棟建築工事着工

昭和58年2月14日午前11時から高等学校旧柔道場跡地で地鎮祭が行われ、着工の運びとなった。この新棟は鉄筋コンクリート造地下1階、地上3階延べ4,454.664㎡(約1,347.5坪)で、地下1階は体育室兼講堂(千名収容)、会議室3室、地上は1階に絵画室2室、講義室、陶芸彫刻室、教員室、準備室、暗室、2階は図書室、3階は視聴覚室2室、教員室、中教室6室などから成っており、昭和59年3月完成の予定である。

・山中山荘本館新築工事竣工

昭和57年10月から山梨県南都留郡山中湖村字平野の既存本館跡地で建設が進められていた山中山荘本館の工事がこのほど完成し、その竣工披露が昭和58年7月8日午前11時30分から同山荘で行われた。この山荘本館は鉄筋コンクリート造、地上2階延べ床面積2,254.09㎡(681.86坪)。1階は玄関ホール、合宿室10室(1室10名収容)、本部事務室、医務室、浴室、2階は食堂、合宿室10室(1室10名収容)、監督室2室、OB室2室、厨房員宿泊室3室などから成っている。

・新図書館・事務棟(日吉)工事着工

昭和58年9月28日午前10時30分から大学(日吉)新図書館・事務棟(仮称)の地鎮祭が日吉事務棟跡地で行われ、着工の運びとなった。この新図書館・事務棟は鉄骨鉄筋コンクリート造地下1階地上5階、延べ床面積9,335.13㎡(約2,823坪)で、地下1階は庶務・会計・用度・工務各課事務室、用務員室、電話交換室、学生相談室、AVホール、

地上1階はエントランスホール、レファレンスルーム、閲覧事務室、選書室、2階は開架閲覧室、グループ学習室、3階は開架閲覧室、学生カレント誌コーナー、4階は書庫、研究者用閲覧室、貴重書閲覧室、5階は空調機械室などから成っており、昭和60年1月下旬完成の予定である。

●大学院等校舎（三田）工事着工

昭和58年11月30日午前10時30分から三田第3校舎跡地で地鎮祭が行われ、着工の運びとなった。この校舎は鉄骨鉄筋コンクリート造地下2階、地上9階延べ面積8,787.661㎡（約2,658.26坪）で、地下2階は大学計算センター、機械室、同1階は放送室、地上は1階にホール、機材室、特別教室3室、2階は特別教室5室、3階は中教室5室、小教室1室、4・5階はそれぞれ小教室4室、大学院演習室11室、6階は大学院生用研究室、7階は大学院生用研究室、司法研究室、会計研究室、大学新聞研究所、事務センター、8階は大学産業研究所、地域研究センター（予定）、事務センターなどから成っており、昭和60年2月完成の予定である。

なお、記念行事・事業以外の事柄については以下の通りである。

●石川忠雄塾長日本私立大学連盟会長に就任

昭和58年2月22日に行われた日本私立大学連盟総会において、石川忠雄塾長が同会長に選任された。任期は同年2月28日から2年。

●学部長の更迭

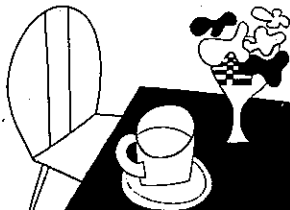
大学各学部長が10月1日付で次の通り決定した。任期は2年である。

文学部長	三雲夏生（重任）
経済学部長	大島通義（重任）
法学部長	阪莖光男（新任）
商学部長	小島三郎（重任）
医学部長	植村恭夫（新任）
理工学部長	大塚保治（新任）

●経済学部帰国子女入学試験の実施

義塾では、日本の教育制度の下で教育を受けてきた者を対象として実施する通常の入学試験とは別に、帰国子女を対象とする入学試験を「慶應義塾大学帰国子女入学規程」に基づき、昭和54年度から文、法、商、医、理工の各学部で実施してきたが、昭和59年度からは経済学部でも実施に移されることになった。

以上



# 公認会計士三田会の有資格者の現況 (昭和58年10月末)

昭22経済卒 西 野 清

## I 公認会計士・会計士補の全国版の現況

### (1) 公認会計士有資格者数

試験別	合格者数	死去数等	現在数
① 3次試験	6,082	353	5,729
② 特別試験	1,042	339	703
③ 特例試験	1,204	225	979
合計	8,328	917	7,411

### (2) 会計士補有資格者数

① 2次試験合格者総数	8,026	(会計士補)
② 2次→3次合格者外	6,213	
③ 2次試験合格者現在数	1,813	(会計士補)

### (3) 日本公認会計士協会登録者数

① 公認会計士有資格者総数	7,411
未登録者数等外	(-) 125
公認会計士登録者現在数	7,286
② 会計士補有資格者現在数	1,813
未登録者数等外	(-) 286
会計士補登録者現在数	1,527
③ 監査法人登録現在数	83
監査法人内の公認会計士総数	2,849

## II 慶應義塾出身者数の現況の推移

公認会計士、会計士補の登録者総数は前述の如くその全国総数は8,813名に及んでいるが、この中において我々、慶應義塾出身者の現況は協会資料に依ると次の如く805名に達した。

### (1) 慶應義塾出身者の内訳表

資格別	全国数	慶應義塾出身数	%
① 公認会計士登録数	7,286	583	8.0%
② 会計士補登録数	1,527	222	14.5%
合計数	8,813	805	9.1%

- 公認会計士は前回報告に比し、51名が新たに登録手続を完了し増加している。
- 会計士補はⅦの表で明らかにされたが、その増加数は9年連続トップの座にあり、この記録は着目さるべき所であろう。

## III 慶應義塾出身公認会計士数年次別

種別 年次	公認会計士		会計士補		合計数	
	慶應出身者	全体比	慶應出身者	全体比	慶應出身者	全体比
52/8月	258	4.8%	約 240	10.8%	498	6.6%
53/12月	311	5.6%	約 250	10.8%	561	7.1%
54/9月	331	5.8%	285	12.7%	616	7.7%
55/6月	360	6.2%	284	12.4%	644	7.9%
56/6月	418	6.7%	269	12.9%	687	8.3%
57/10月	532	7.6%	232	14.6%	764	8.9%
58/10月	583	8.0%	222	14.5%	805	9.1%

IV 慶應義塾出身・公認会計士・新人一覽 (51名)

氏名	学部	年度	登録No.	氏名	学部	年度	登録No.
鈴木重雄	経	50	7739	大橋一生	法	55	8069
堀仁志	商	51	7774	三橋優隆	経	55	8070
小山貴久	経	51	7931	須賀豊彦	商	55	8072
小林公英	商	58	7938	小池二三男	経	55	8076
池上玄	商	52	7941	中村嘉彦	経	55	8080
菅原一泰	商	53	7946	川瀬一雄	商	52	8085
青木章太	商	46	7958	岩井伸太郎	商	51	8114
吉本勝雄	商	54	7962	笠原壽太郎	経	44	8118
石田信一	工	50	7972	鹿谷哲也	商	51	8138
和田榮一	経	在学中	7983	井上榮光	商	44	8158
今井純子	経	50	7997	平岡幹康	法	54	8160
小野瀬益夫	法	55	8000	高田英夫	文	52	8162
北山雅一	商	54	8006	鈴木洋之	経	50	8177
神山貞雄	経	55	8007	森公高	経	55	8190
西出孝二	工	52	8011	永井俊博	商	55	8193
堤紀男	商	46	8018	鈴木基仁	経	50	8209
大岩敏郎	商	53	8019	乙益文隆	商	45	8210
寸田一雄	商	54	8020	高橋佳晴	法	49	8222
渋谷英司	経	54	8021	大原弘美	商	43	8228
太田正人	商	50	8047	上野一夫	経	47	8241
松葉文徳	商	46	8053	秋田勝利	経	55	8262
高橋敬一	法	44	8054	小田茂達	経	49	8263
村松昌信	経	53	8063	米澤英樹	経	51	8286
川田英淑	経	50	8064	浅田勝彦	経	52	8291
小林修	商	54	8066	吉田隆善	商	45	8296
山岸誠一	商	55	8067	以上		増加数	51名

注：○印は大学院卒



V 慶應義塾出身公認会計士登録順一覧（583名内訳）

登録番号	人数	累計
① 1 ~ 500	9	9
② 501 ~ 1000	10	19
③ 1001 ~ 1500	13	32
④ 1501 ~ 2000	14	46
⑤ 2001 ~ 2500	17	63
⑥ 2501 ~ 3000	19	82
⑦ 3001 ~ 3500	10	92
⑧ 3501 ~ 4000	7	99
⑨ 4001 ~ 4500	28	127
⑩ 4501 ~ 5000	34	161
⑪ 5001 ~ 5500	53	214
⑫ 5501 ~ 6000	61	275
⑬ 6001 ~ 6500	70	345
⑭ 6501 ~ 7000	60	405
⑮ 7001 ~ 7500	70	475
⑯ 7501 ~ 8000	69	544
⑰ 8001 ~ 8296	39	583
⑱ 登録現在数計		583

上記一覧が示す如く、公認会計士の登録番号で5000番台以降が422名もおり（前年比51名増）全体数の72.3%を占めるに至っている。

VI 公認会計士三田会加入の現況

① 公認会計士関係（慶應出身）		② 会計士補関係（慶應出身）	
① 東京会所属公認会計士数	515	① 三田会加入・東京会所属数	25
② 東京会以外(地方会)所属会計士数	68	② 三田会加入・地方会所属数	3
合計数	583	③ 三田会未加入・会計士補数	169
③ 三田会加入・東京会所属数	202	合計数	197
④ 三田会加入・地方会所属数	41		
合計数	243		
⑤ 三田会未加入・東京会所属数	326		
⑥ 三田会未加入・地方会所属数	38		
合計数	364		

Ⅶ 第二次試験合格者の出身校別リスト表（慶大9年連続首位）

会計士補・東京実務補習所入所・年度別調べ

年次 \ 順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	註
① 昭和48年度	慶大 42	早大 30	明大 18	中大 16	一橋 11	東大 9	日大 8	法大 5	横浜 2	立大 1	（横浜は横浜国大、 一橋は一橋大を表す。）
② 昭和49年度	中大 65	慶大 61	早大 42	明大 25	東大 10	一橋 8	横浜 8	法大 7	立大 5	日大 0	
③ 昭和50年度	慶大 32	早大 22	中大 16	明大 16	東大 9	日大 6	法大 5	一橋 3	立大 0	横浜 0	
④ 昭和51年度	慶大 50	中大 44	早大 29	明大 28	一橋 14	日大 8	法大 6	横浜 6	立大 6	東大 5	
⑤ 昭和52年度	慶大 45	中大 44	明大 30	早大 26	一橋 13	日大 7	東大 6	法大 6	立大 6	横浜 5	
⑥ 昭和53年度	慶大 39	早大 37	中大 34	明大 13	一橋 6	法大 6	東大 5	横浜 5	立大 3	日大 2	
⑦ 昭和54年度	慶大 36	早大 29	中大 23	明大 14	一橋 9	法大 8	東大 5	横浜 5	立大 5	日大 5	
⑧ 昭和55年度	慶大 30	早大 30	中大 27	明大 17	一橋 9	横浜 8	法大 5	東大 3	立大 3	日大 0	
⑨ 昭和56年度	慶大 26	早大 24	中大 20	明大 13	一橋 10	横浜 7	東大 6	法大 6	日大 3	立大 2	
⑩ 昭和57年度	慶大 26	早大 18	明大 16	横浜 14	中大 11	一橋 8	東大 5	法大 4	立大 4	日大 1	
⑪ 昭和58年度	慶大 35	早大 34	中大 18	明大 18	横浜 9	法大 8	一橋 7	東大 5	立大 5	日大 2	
(計)	慶大 422	早大 321	中大 318	明大 208	一橋 98	横浜 69	東大 68	法大 66	日大 42	立大 40	

昭和58年12月20日発行

編集人 森 重 栄

発行人 西 野 清

発行所 公認会計士三田会

東京都千代田区霞が関3-2-5

霞が関ビル第3202号室

電話 03(581)6281